

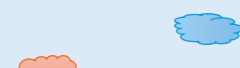
テーマ 音

【テーマの設定理由】子どもたちが日常生活の中でさまざまな音に興味を示し、楽しむ姿が見られます。言葉の獲得が進む時期でもあり、身近な音を通じた表現ややりとりが言葉の発達や他者との関わりにもつながると考えました。

活動 ① 自然の中にある音に触れてみよう！

夏 水の弾ける音

温水遊びを存分に楽しみ、水をかき回したり、叩いたり、流したりする音を立てることに一生懸命になっていたり、音を真似て言葉にしてみる様子が見られ、友だちや保育者とのコミュニケーションにつながっていました。氷や寒天などさまざまな材料も用意したことで、シャワーの音、氷がぶつかる音などを全身で感じながら楽しむ姿が見られ、水とは違った音や感触も言葉にして表現することを楽しんでいました。



活動 ② 自然の中にある音に触れてみよう！

秋 落ち葉や風の音

落ち葉に触れた時の乾いた音を聞いて、さらに踏んだり握ったりすることで出る音の違いを感じたり、拾った石を地面に当てると響く音を「バリバリ」「カンカン」などと一緒に音を言葉で表現しながら触れ合いややりとりを広げていく姿がありました。



活動 ③ 楽器に興味を持ち、触れたり叩いたりして音を鳴らしてみよう！

冬 楽器を鳴らしてみる。

11月頃からはひょう会に向けて幼児クラスが歌を歌ったり、楽器を演奏したりする音があちらこちらから聞こえます。興味津々も子どもたち。合奏している様子の見学を通してさらに楽器を身近に感じる機会があり、後日実際に楽器に触れる時間を設けると、どんな感触なのか、どんな音がするのか興味を持って楽器に触れ、夢中になって音を鳴らしていたたんぼぼ組さん。保育室にも身近な素材や、公園で子どもたちが拾ったどんぐりなどの自然物で手作りのマラカスを置いてみると、「いい音」など言葉やしぐさで表現し、音楽に合わせて鳴らしたり踊ったりして自由表現することを楽しんでいました。これからも「音」をきっかけに友達とつながる姿や発見を子どもたちと一緒に楽しみたいです。



【振り返り】

いつも何気なく耳にする音を意識すると、子どもたちは身近な音に興味を示している様子がさまざまな場面で見られました。いろいろな素材を用意することで、音の違いや変化を繰り返し楽しむ姿がありました。また、言葉の獲得が進む時期において、音を言葉やしぐさで表現したり、友だちと共有したりする姿が見られ、音遊びが言葉の発達や関わりにつながっていることを感じました。今後も子どもたちの興味を大切にしながら活動を計画していきたいと思えます。